

## 〈特別セッション〉 アベノミクス

### アベノミクスの3つの誤り

慶應義塾大学 小幡 績

アベノミクスは誤っている。ただし、ほとんどの政権が、経済政策については毎回ほぼ同じ誤りを犯してきたので、ことさら、安倍政権だけを批判するのは間違っている。しかし、あえてここで取りあげなければならないのは、世間で、アベノミクスとして、従来どおり誤った政策が賞賛され、人々はこれで問題がすべて解決するのだと誤解しているからだ。さらに、多くのエコノミストまでがこの誤りに追随している。これは大きな問題だ。アベノミクスはいわゆる三本の矢から成り立っているとされているが、それぞれが根本的な誤りを犯している。

大胆な金融政策。金融政策はすでに拡張的であり、さらなる金融緩和、インフレあるいは期待インフレによる実質金利の引き下げは実現できないし、資産市場に歪を与え、日銀の金融政策を追い込み、国債市場の混乱による中小金融機関の行き詰まりをもたらすだけだ。機動的な財政政策。日本経済は短期的にはかなりの好景気であり、景気変動から行けば、財政はむしろ引き締めるべき局面である。さらに、日本は需要不足ではない。新しいアイデア、新しい製品、新しいビジネスモデルが不足しているだけだ。したがって、経済の構造を新しい世界経済の環境に合わせて変化させるべきであり、これまでの経済構造をむしろ固定化するような景気刺激策はマイナスだ。

成長戦略。民間の投資を喚起する、と銘打っているが、それは物理的な設備投資で需要を起こせば、投資が投資を呼ぶ展開、高度成長期のようなことをイメージしているようだ。それは時代錯誤だ。成長戦略は人の成長からしかもたらされない。日本経済に必要なことは、設備投資ではなく、需要でもなく、人の成長だ。